

おしゃべりしながら絵を見ると・・・！？



《角笛を吹く牛飼い》制作年不詳 油彩・板 38.1×27.9cm

☀️ おしゃべりしていたら、一つの絵の中から知りたいことがたくさんで
てきたよ。角笛のことや茶色や白色の牛がいるから、牛の種類のこ
とが…。

☀️ わからないことを調べてみるのもいいですね。自由研究にもつながり
ます。おしゃべりしながら絵を見ると想像が広がり、「…のように見え
る」「…かもしれない」と一緒に考えながら絵を見ると楽しいですね。
ちがう絵も見なくなったよ。

☀️ 本物の作品を見ながらおしゃべりしてみてください。山梨県立美術館
で「かぞくのためのアートでトーク」もときどき開催しているよ！
見て・感じて・話して楽しむアート体験♪ぜひ参加してみてくださいね！

<https://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

☀️ この絵はミレーの描いた《角
笛を吹く牛飼い》です。おし
ゃべりしながらこの絵を見
てみましょう。何が見えます
か？

☀️ よく見ると、牛の他にも生き
物があるね。

☀️ 奥に小さな黒い生き物が見え
ますね。猫のようにもみえま
すが、犬です。

☀️ 角笛はどんな音がするの
かな？

☀️ 牛飼いが岩の上で吹いている
様子から、遠くまでひびく音
かもしれませんね。

や
ま
お
り

美術館ワークブック



種をまく 世界がひらく

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art

美術館ってどんなところ？

山梨県立美術館は、1978 年秋に開館
し「ミレーの美術館」として親しまれ
てきました。誰でも気軽に鑑賞した
り、イベントに参加したりできるよう
「開かれた美術館」をめざして美術館
活動を進めています。

ミレーってこんな人！



《ミレーの肖像》ナダールが撮影した
40 代なかばぐらいのミレー



《種をまく人》
1850 年油彩・麻布 99.7×80.0cm

ミレーは、1814 年 10 月 4 日、フランス
北西部グリュシーという小さな村の農家に長
男として生まれました。後にパリの美術学校
で勉強し画家の仕事をはじめました。

1849 年パリで病気が
流行し、治安も悪くなった
ことからバルビゾン村へ引
越し、農民の絵を描くよ
うになります。ここで最初
に手がけた大作が《種をま
く人》でした。ミレーは、フ
ォンテーヌブローの森のそ
ばにある小さなこの村に住
み、1875 年 1 月 20 日に
亡くなるまで多くの作品を
描きました。





チューブ入り！！油絵具のひみつ

わたしたちがいつも使っている絵具。チューブから出すだけで使えて、とても便利です。でも、昔はどうだったのでしょうか？チューブの形になるまでの歴史と、絵具のひみつをさぐっていきましょう！

● 昔の油絵具

- むかしは、今のようなチューブには入っていませんでした。
- 色の石など（顔料）をビンに入れて、使うときに細かくすりつぶして油を自分でまぜて使いました。
 - そこで、軽くて持ち運びのしやすい絵具入れを考え出したのです。



まず知っておこう！色の正体。

● 顔料って？

顔料は「色のこな」のことです。たとえば、土や石・植物・鉱物などからできています。自然のものからつくって使っていました。



孔雀石



孔雀石のこな

孔雀石の絵具の色名は緑青です。他にもいろいろな色の石からいろいろな色がつくられています。調べてみてね！

● 油絵具ってなに？

油絵具は 顔料 + 油 でできてます。



● 考えた絵具入れってなに？

最初は、ぶたの膀胱（おしっここのたまる袋）にすりつぶした絵具と油を入れてみました。

- これで絵描きさんたちは外に絵具を持ち運びやすくなりました。
- でも、ブタのぼうこうはすぐにダメになってしまいうし、一回使うともう使えませんでした。



● チューブの発明！

次に作られたのが、チューブ入りの絵具です。いろいろな種類の金属チューブが発明されました。

- 硬くてさびにくい【 真ちゅう製のチューブ 】
- やわらかくて加工しやすい【 すず製のチューブ 】
- 軽くて丈夫でしぼりやすい【 アルミニウム製のチューブ 】



むかしのチューブは洗って何度も使っていました。



やわらかいチューブがつくれ、使い切りで使えるようになりました

- 油絵具をさわってみよう！一本からでも買えるよ。どんな絵具かな？
- ちょっとまぜてみたり、紙にのせてみたり…。匂いはどんな感じかな？
- 水彩絵具と、ちがうところをみつけてみよう！